

どんどん借りて、どんどん溜めよう！

楽しく学べる図書館利用スキルアップゲーム

NDC BINGO が 進化しました！



現在、日本国内の図書館の大部分で採用されている図書分類法「^日_本 ^十_進 ^分_類 ^法_法」略して「NDC」は、本の内容を「1：哲学」から「9：文学」の9つに分け、百科事典のようにあらゆる内容が含まれる分けがたいものは「0：総記」として、そのそれぞれのなかで、さらに「91：日本文学」「92：アジア文学」・・・と10に分け、さらに「911：日本の詩歌」「913：日本の小説」・・・というように細分化していく分類法です。数字の順に本を書棚に並べると、自然と内容の関連性が高い本が一か所に集まるという機能的な分類番号で、これを知っていると、どこの図書館に行っても、目的の本がだいたいどこにあるかわかります。

久美浜高校では、生徒のみなさんが、卒業後も自らに必要な勉強を独りでも続けていけるよう、生涯学習の頼もしいパートナー・図書館を使いこなせるように、NDCについて新入生オリエンテーションで説明し、実際に図書館の膨大な本のなかから目的の本を探す実習を行っています。

そんな知識、要る？ いまどき、どこの図書館にもコンピュータ検索があるんじゃないの？

と、思う人もいるかもしれません。たしかに、コンピュータ検索は便利です。しかし、関連本でも、検索用語がタイトル等に含まれていない場合はひっかからないので、実際にその分野の本棚を見て、本を手にとって開いてみるほうが、とりこぼしのない学習をすすめることができるのです。そこには、知っている用語を入力してコンピュータで検索したのでは決して探すことができない、新しい発見もあるかもしれません。まだ将来の仕事や生き方が定まっていない、たくさんの可能性を秘めた高校生には、そんな偶然の出会いも大切なのではないのでしょうか。

そこで、未知の分野の本棚にもどんどん目を向け、ついでに図書分類について詳しくなって、図書館利用スキルをアップしてしまおう！という、一粒で二度美味しい企画が、「NDC BINGO」です。ビンゴカードの数字と、同じ数字のNDCの本を借りるとスタンプがたまり、1列たまるごとに景品をプレゼントしています。オリエンテーションで学んだNDCを、実際に本を借りる時に意識することで、知識をよりたしかなものとする、未知の分野の本にも手をのばしてみることを目的とした企画です。

今年度4月から9月の半年間で、久美浜高校の生徒が学校図書館から借りた本の本数は、生徒一人あたり5.7冊。京都府立高校の1年間の平均貸出数4.6冊(平成25年度)を、すでに大きく上回りました。この利用率は、丹後地域の府立高校のなかでも群を抜いています。

NDCは一般的に3桁で表示されているので、1学期は、そのうちの1桁目と同じ数字の本を借りるとスタンプがたまりました。2学期はさらに進化して、2桁目まで同じ数字の本を借りるとスタンプがたまるようになりました。

昼休み、「『42-』ってなんの本？」「『28-』って、たしか伝記やんな。こっちの棚だったっけ？」と、あがった難易度も楽しみに換えて、日々取組む生徒達の姿が見られます。

たくさんの本によって、生徒が世の中の様々なることに関心をもつとともに、自らの内に秘めた可能性を発掘できることを期待します。

